

1994年9月3日

中臣遺跡第73次調査 現地説明会資料

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

調査地 京都市山科区栗栖野中臣町他
調査期間 1994年4月16日～9月30日（予定）
調査面積 約7900㎡

この調査は、京都市勧修寺第一市営住宅団地の建て替えを契機として実施しており、中臣遺跡の第73次調査にあたる。

中臣遺跡については1969年の発見以来、1971年からほぼ毎年継続して発掘調査が行われ、縄文時代から室町時代にわたる複合遺跡であることが判明している。

以下に、今回の調査で検出した主要な遺構・遺物の概要を、時代別に紹介する。

－遺構・遺物－

鎌倉・室町時代

掘立柱建物、墓、溝、柱穴列などがある。

掘立柱建物は、2×3間の身舎に1間分の庇が西側と北側および東側の一部にめぐる。さらに、南東側には柱穴に囲まれた範囲に土間（タタキ）と焼けた面があり、この部分はいわゆる「台所」に相当すると考えている。また、南西側には1間四方で張り出す付属屋が付く。出土した遺物からみて鎌倉時代前半頃である。

墓は、2箇所を検出した。一つは、蔵骨器に火葬骨をおさめている。蔵骨器は12世紀代の常滑の焼き締め陶器壺を用いているが、この壺は伝世されたとみられ、14世紀代の土師器皿で蓋をしていた。他の一つは土壙に火葬骨のみをおさめた墓跡である。

遺物は、おもに鎌倉時代の土師器皿、瓦器椀・鍋などの土器類と鉄製ナイフ（刀子）などが出土している。

平安時代

土器を埋納した遺構のみで、他に明確な遺構はない。

埋納遺構は、柱穴状のくぼみに11世紀の完全な形の土師器皿1個を埋納している。

遺物は、土師器皿などがわずかに出土している。

飛鳥から奈良時代

掘立柱建物4棟以上などがある。

掘立柱建物は、2×2間の総柱建物3棟と2×3間の建物1棟である。総柱建物は、倉であった可能性が高い。他に、建物として完結するまとまりを調査区内では確認していないが、明らかに建物を構成する柱穴が多数ある。

遺物は、須恵器杯・蓋などが少量出土している。

古墳から飛鳥時代

竪穴住居址16戸以上、墓、土壙などがある。

竪穴住居址は、出土した遺物からみて7世紀前半から後半にかけて営まれているが、大半は7世紀後半に属する。

墓は、土師器甕の一部を棺に転用し、鉄製ナイフ（刀子）・人骨などが出土した。

遺物は、土師器甕・椀、須恵器杯・蓋・甕などがおもに竪穴住居址からまとまって出土している。土器類以外では、鉄製ナイフ（刀子）、砥石などがある。

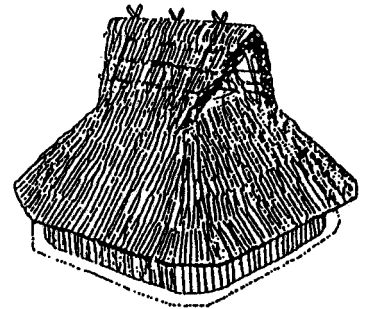
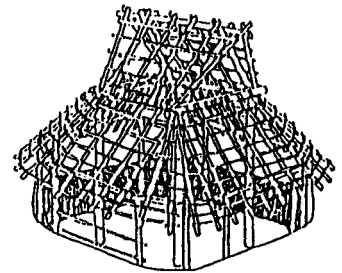
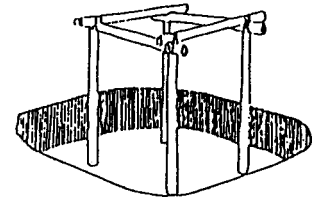
縄文時代

土器棺墓2基と土壙群がある。

土器棺墓は、縄文時代晩期の深鉢を棺に転用して墓としている。

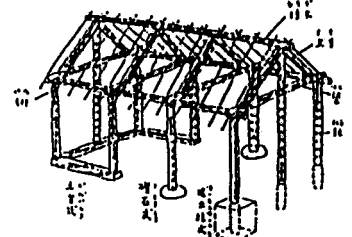
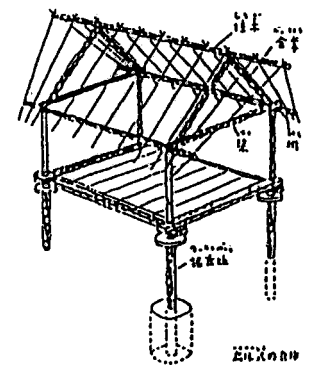
土壙は、その形態や土壙内に堆積した土の状態などからみて、貯蔵穴や墓あるいは柱穴なども考えられる。

遺物は、晩期の深鉢などの土器、石鏃・石錐・石皿・磨石などの石器が出土している。その他、遺構にともなわないうが、弥生時代の壺、磨製石斧・石鏃などが出土している。



たてあな住居の作り方

「古代日本を築掘する6 古代の村」
岩波書店 より



ほったて柱建物のほねぐみ

「日本人はどのように建造物をつくってきたか? 平城京」葦原社 より

－むすび－

発掘調査は、今後さらに1ヶ月程継続しておこなうため、ここではこれまでに明らかになったことを中心に、中間的なまとめを述べてむすびとする。

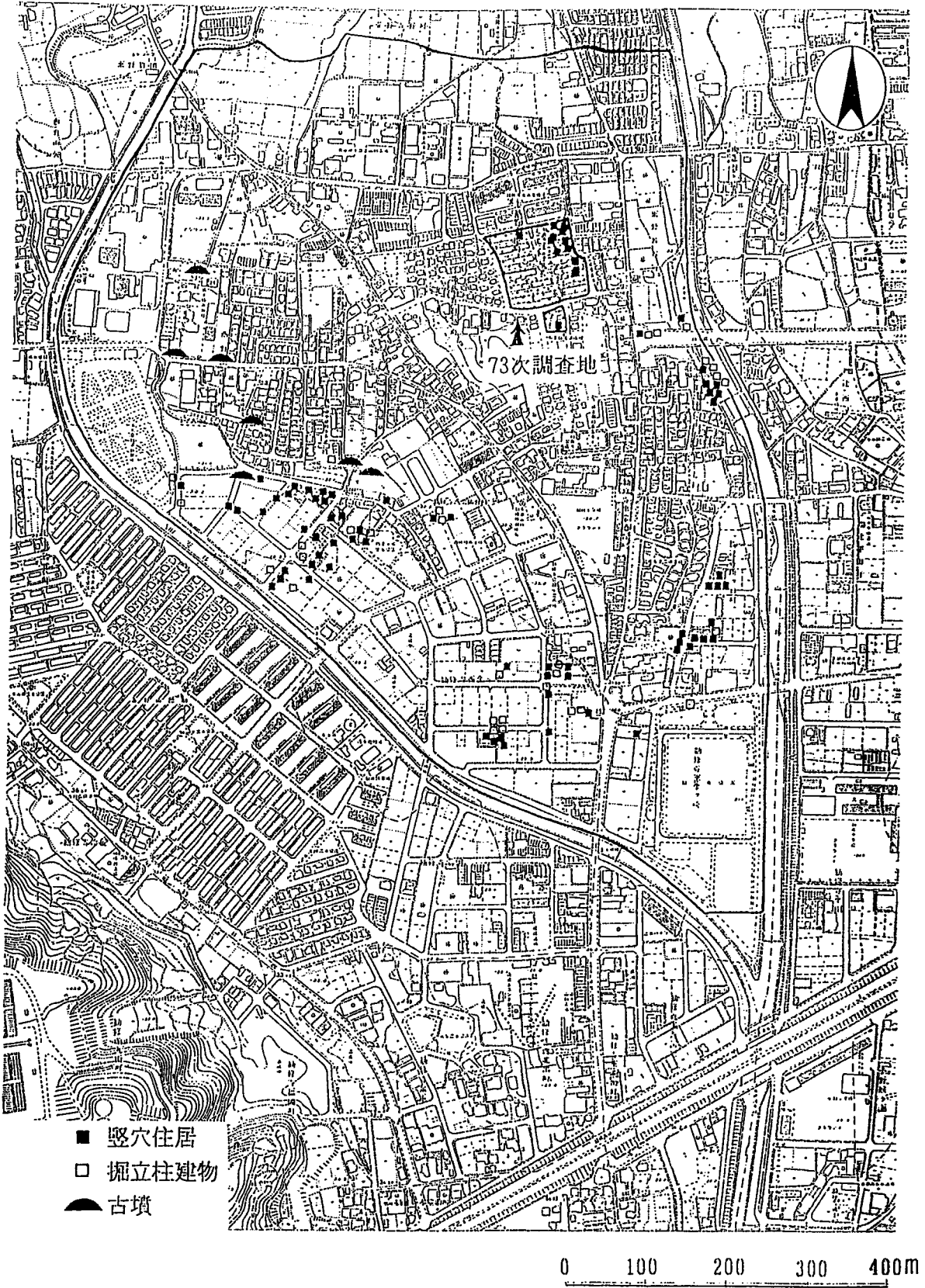
中臣遺跡に対して1971年以降継続して行なってきた、発掘調査や立会調査の成果を総合すると、平安時代後期以降の集落については、当調査区の北西にあたる地域が特に高い遺構密度を示し、集落域がその付近にあることが明かとなっている。今回、当該期の建物、墓などの遺構を検出したことで、集落域が当調査区にかけても広がっていることが明かとなった。中世村落の展開、復原を考える上で貴重な成果を得た。

中臣遺跡は、弥生時代後期から古墳時代の集落址として著名であるが、今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺構・遺物は、居住域からはずれていたとみられ検出していない。また、これまで中臣遺跡で継続的行なってきた調査で、7世紀後半の集落はほとんど未確認の状態であった。今回の調査では、この時期の竪穴住居址の一群を検出することができた。これにより、集落の変遷と復原を考える上で、空白期を埋める資料を得たことになり、重要な成果であった。一方、この時期は、近江に大津京が営まれた時代とも符合する。これまで、大津京へいたる街道筋にあたる山科盆地の様相は、この地がかなり重要な地点に位置していたと推測できる程度で、その実態については、考古学的にあまり明かとなっているといえない状態であった。今回、中臣遺跡で確実に当該期の集落が営まれていることを確認した点において、中臣遺跡の東方に位置する大宅麿寺下層の大宅遺跡とともに往時の山科盆地の様相を知る上でも重要な成果であった。

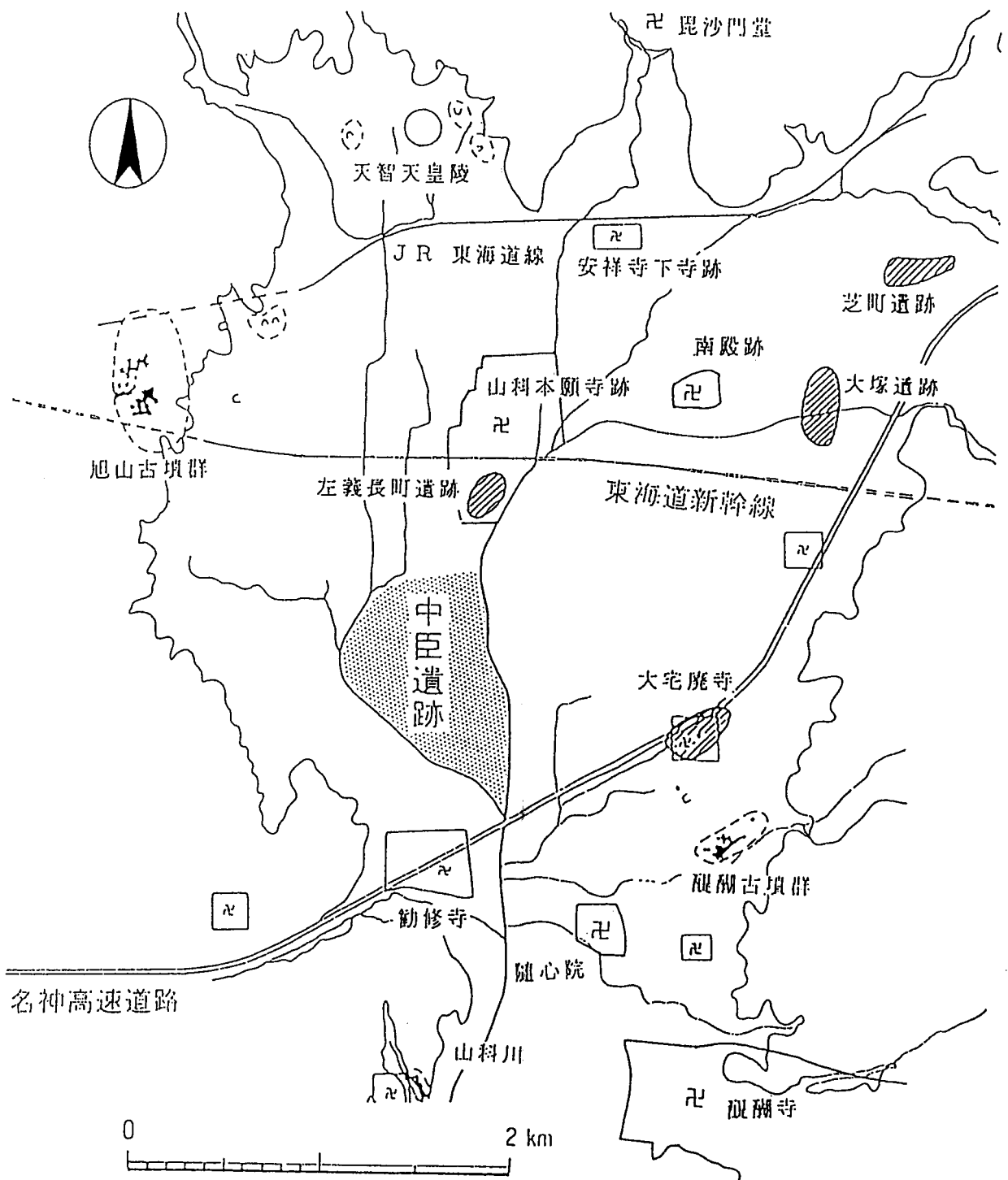
調査区の東方、山科川と接する地点で、過去に、縄文時代後期から晩期前半の遺物を多量に含む遺物包含層及び墓跡、土壌などを確認している。今回の調査で、晩期前半を中心とする墓（土器棺墓）、あるいは土壌群などを確認したことから、この時期の遺跡の範囲がかなり広範囲にわたることが明かとなった。

番号	地区	平面形	規模 (m)		備 考
			東西	南北	
竪穴1	A区	方形	4.80	3.0以上	主柱穴2 (+2) 箇所
竪穴2	3区	方形	5.65	5.75	北壁にカマド、主柱穴4箇所
竪穴3	1区	方形	6.5以上	7.90	北壁にカマド、主柱穴4箇所
竪穴4	5区	方形	2.95	3.05	東壁にカマド、主柱穴なし
竪穴5	3区	方形	5.80	5.40	西壁にカマド、主柱穴4箇所
竪穴6	3区	方形	(4.80)	(4.70)	未調査(黙5に掘れる)
竪穴7	3区	方形	4.0以上	4.00	北壁にカマド、主柱穴なし
竪穴8	3区	方形	4.00	4.30	南西壁にカマド
竪穴9	3区	方形	6.0以上	7.80	西壁にカマド
竪穴10	3区	方形	3.70	3.40	西壁にカマド
竪穴11	3区	方形	(5.20)	(4.5以上)	未調査(黙10に掘れる)
竪穴12	3区	方形	——	——	未調査(黙10・11に掘れる)
竪穴13	3区	方形	5.10	5.20	北壁にカマド(黙2に掘れる)
竪穴14	3区	方形	5.40	2.3以上	主柱穴4箇所 (黙1に大井が掘れる)
竪穴15	3区	方形	——	——	未調査(黙9に掘れる)
竪穴16	3区	方形	——	——	未調査(黙15に掘れる)

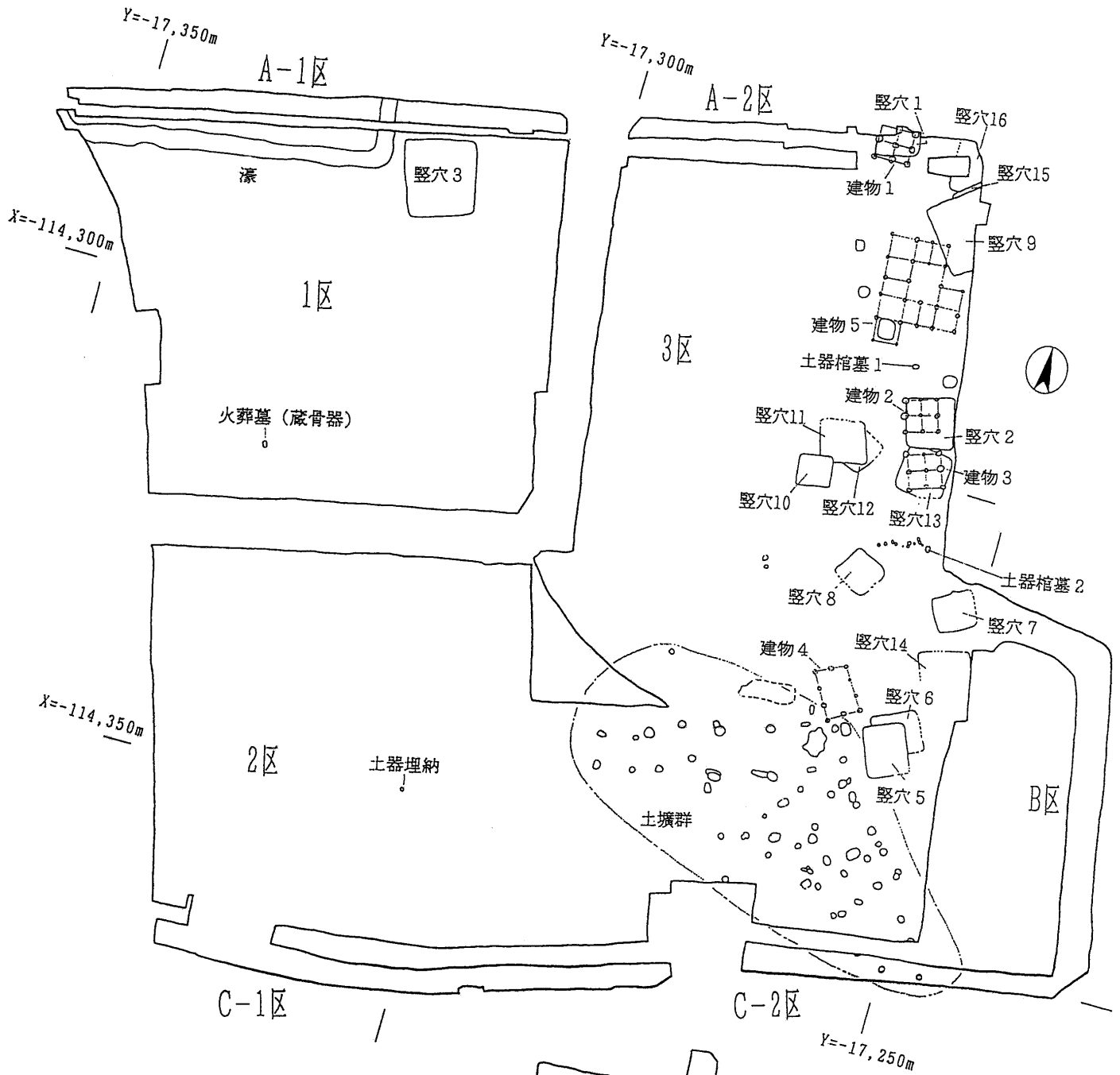
竪穴住居址一覧表



中臣遺跡古墳時代後期主要遺構分布図



山科盆地の主要遺跡

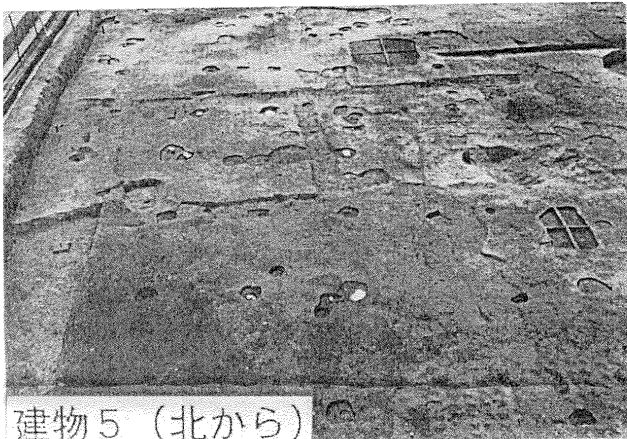
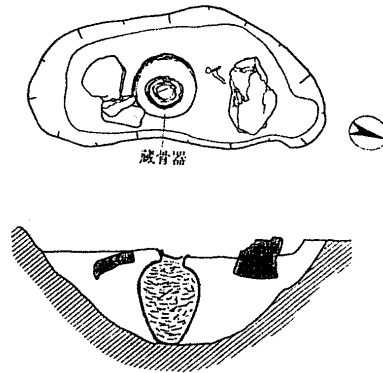


- ◎ 縄文時代 … 土器棺墓 1~2、土坑群
- ◎ 古墳時代後期
 - ~ 飛鳥時代 … 竖穴 1~16
- ◎ 奈良時代 … 建物 1~4
- ◎ 平安時代
 - ~ 室町時代 … 土器埋納、建物 5、火葬墓、濠

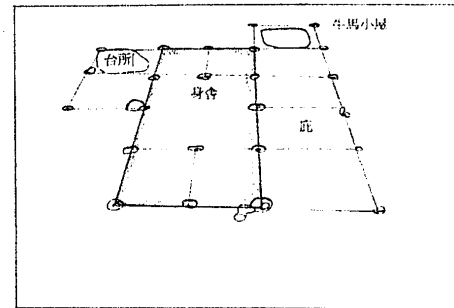
主要遺構分布図 S=1/500



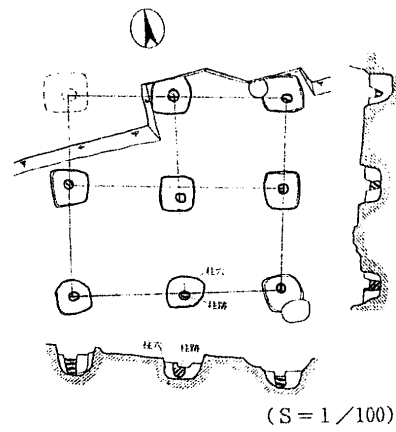
火葬墓 (南西から)



建物5 (北から)



建物1 (南から)



竪穴2 (南から)

